

○ 日本原子力学会核データ部会発足のお知らせ

3月の松山で日本原子力学会「2000年春の年会」が開催されましたが、その3日目の3月30日に、「核データ部会」設立総会が開かれ、核データおよび原子核物理に関連する専門分野の研究活動を支援し、その発展に貢献することを目的とする「核データ部会」の設立が宣言されました。当日選任された運営委員一同、核データ部会の発展のため努力する所存でございますので、核データニュース読者各位のご支援を心よりお願い申し上げます。なお、第1期運営委員会委員は下記の通りです。

部会長： 更田豊治郎（日本海洋科学振興財団）

副部会長：吉田 正（武蔵工業大学）

企画担当：真木紘一（日立製作所）

石川 真（核燃料サイクル開発機構）

山野直樹（住友原子力工業）

李 大遠（韓国 釜山大学校）

井口哲夫（名古屋大学）

編集担当：馬場 護（東北大学）

中川庸雄（日本原子力研究所）

河野俊彦（九州大学）

親松和浩（愛知淑徳大学）

会計担当：井頭政之（東京工業大学）

会計監査：川合將義（高エネルギー加速器研究機構）

核データ部会にご加入頂ける方で、まだ手続きをお済みでない方は、お早めに手続きをして下さい。入会申込は、下記の様なメールを原子力学会事務局（atom@aesj.or.jp）宛に送っていただければ完了します。

部会入会申込書

核データ部会に加入したくここに申し込みます。

加入者氏名：

原子力学会会員番号：

所属：

核データ部会のホームページが開設されています。URLは

<http://wwwndc.tokai.jaeri.go.jp/~ndd/>

です。また、部会員間ではメーリングリストで情報交換ができるようになっています。参考までに、核データ部会の設立趣意書を添付します。

核データ部会設立趣意書

軽水炉から核融合炉まで、あらゆる原子力システムは原子核の反応にその技術の基礎を置いている。したがって、これらの技術が進歩し、世の中により広く受け入れられてゆくためには、原子核の反応をはじめその構造や崩壊に関する深い知見と、それに基づく広範で精度の高い核データの集積が必須のものとなる。一例をあげるなら、原子炉物理、遮蔽工学、計算機科学の発展ならびに計算機ハードの急速な進歩により、膨大できわめて高精度の計算が可能となりつつあり、近い将来、核データの精度がそのまま原子力システムの設計精度を律するようになるであろう。

これらエネルギー生産のための原子力システムにくわえて、放射線工学や加速器・ビーム工学などの原子力関連技術は、計測、材料などの工学分野から、物理学、生物学、医学、環境科学、天体核物理へとその応用の裾野を広げつつある。その結果、原子核物理をはじめとする基礎研究領域と、原子力関連技術とのボーダーレス化が進み、またそこで必要とされる核データも極めて多岐にわたるものとなる。

このような必要性を満たすため、我が国では、実作業を行うワーキンググループの集合体であるシグマ委員会を基軸として、核データの測定・評価・整備に関わる活動が活発に行われている。しかし、工学的観点に立脚した原子核事象のより深い理解と核データの量的拡大をバランスよく達成するためには、学会における情報交換と適切な議論が必須のものであることは論を待たない。このため、近年やや分散化の傾向にある学会内での核データ関連活動を、「核データ部会」を新たに設立することにより再編成し、核データ研究に携わる研究者・技術者の間の情報伝達と議論をさらに円滑にし、これを活性化することが急務である。それにより、関連する他の部会、あるいは他の学会・協会との機能的な連携が可能となり、結果として日本原子力学会全体の活動の活性化とバランスある発展が可能になるものと考えらる。